

11月20日(月)

最 高 の あ い さ つ

聖書朗読 I テサロニケ 4:13~18

ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。 使徒 1:11

私は、自分のパソコンのそばに、2歳の息子の写真を飾っています。写真の中の息子は、カメラの方に向かず、空に浮かぶ虹に向かって腕を広げています。息子の表情はわかりませんが、きっと夢中になっていたに違いありません。生まれて初めて虹を見たのですから。そして親はその瞬間を撮りたかったのです。素晴らしい写真ですが、それだけではなく、息子がしゃべった言葉をいつも覚えています。それを聞いた母親によると、深く息を吸い込んで、「あなたに会えてとっても幸せ！」と叫んだそうです。

私たちにとって、若き時代の大半は、新たな友人、兄弟、教師と出会う、「はじめまして」の月日の積み重ねであり、私たちのように結婚した人にとってその人生は、子どもたち、そして孫たちとの「はじめまして」の月日なのです。私たちは皆に会えてとても幸せでした！そして、時が過ぎるにつれ、さようならと言う機会の方が増えることに気付くのです。

しかし、私たちは最後に言うべき「はじめまして」をまだ言っていません。イエス様は再びおいでになります。それが、主の復活、昇天と再臨にある私たちの信仰と希望なのです。

信仰が目に見えるものとなったとき、私たちはイエス様に会えてとても幸せになるのです！

讃美歌 3

祈り 父なる神様。イエス様の再臨のお約束に感謝申し上げます。私たちにはそれ以上の素晴らしい希望はありません。永遠のいのちの招きのために私たちを迎えにこの地上に再びこられるその日に私たちはあなたさまをお迎えいたします。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

エミリー・Y・レムリー
(編集者)

今日の力

2017年11月20日～11月26日

翻訳 小出友紀

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月21日(火)

静かに、主が試みておられます

聖書朗読 創世記 22：1～8

信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

ヘブル 11：1

どんな父親、どんな神が、父親に息子を犠牲にしろと命じるのでしょうか？ 答えは、唯一、自ら同じことをした神（そして父親）だけがそれをできるのです。モリヤの地で起きたことは想像に難くないです。それは、数世紀後にゴルゴダと呼ばれる小さな丘で起きたことの縮図であり、父と御子、犠牲、痛みを伴う疑問、3日間、そして、神が与えたことによって表されるのです。

試験をする教師は、生徒のうちにあるものを正確に知っています。試験の目的は生徒のうちにあるものを外に表すことなのです。アブラハムの場合は、彼の信仰を目に見えるものとして、表すための主の試みであったのです。神は、彼の人生の歩みの上に、契機を作り、アブラハムの信仰を生み、育み、深化させたのです。これが父親のすべきことなのです。

父なる神様は、私たちが自身で見ることのできないものをご存知であり、私たちの信仰を目に見えるものとして私たちの眼前に表してくださる契機を与えてくださいます。そのことに私たちは感謝いたしましょう。

心にそのことを覚え、私たちの歩みのうえに神が与えたもう次なる試しの機会に備えましょう。

讃美歌 285

祈り 父なる神様。あなた様は私たちの心の奥底までご存じであり、私たちに変わらぬ愛情を注いでくださいます。それがゆえに、私たちの道に、主の試みが与えられることを理解しています。私たちはそのことに感謝申し上げます。どうかその時には、あなた様が私たちに与えてくださっている愛と同じくあなた様に応えることができますように祈ります。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ブルース・グリーン

アラバマ州 オペリカ

11月22日(水)

夢見る者がやって来る

聖書朗読 創世記 37：12～24

彼らは互いに言った。「見ろ。あの夢見る者がやって来る。さあ、今こそ彼を殺し、どこかの穴に投げ込んで、悪い獣が食い殺したと言おう。そして、あれの夢がどうなるかを見ようではないか。」
創世記 37：19

最近、家族と地元の高校の自作上演「ヨセフ・アンド・ザ・アメージング・テクニカラー・ドリームコート」を観ました。おおまかに言えばヨセフの物語です。劇の仔細の大半はフィクションですが、主要な点は聖書の説明に則って真実です。現代の文化にあって、今もヨセフの物語は人気ある劇として人々の間に響き渡るのです。

荒野でヨセフが兄たちを見つめようとするこの場面は、有名です。ヨセフが兄たちのところに来た時、彼らはヨセフを穴の中に投げ込んで、奴隷として売りとばします。奴隷としてエジプトに送られたヨセフはそこで成長し力を得るのです。今日の聖書の箇所は、その前の『見ろ。あの夢見る者、ヨセフがやって来る。』と、兄たちが互いに言っている場面です。

夢見る者ヨセフが夢見る者であったのは神がそのようにされたからなのです。神が夢を与え、兄たちはそれを憎みました。神が望まれることを成す人々に対しては幾度となくそのようなことがあります。神を知らぬ者にとっては、私たちクリスチャンが行うことは理解できないかもしれません。しかし、それを理由にやめてはなりません。ヨセフのように、神に捧げ続けましょう。

讃美歌 380

祈り 父なる神様。あなた様の慈愛に感謝申し上げます。主が私たちに成すべきことを与えてくださるお働きに感謝申し上げます。私たちの人生の歩みのために、あなた様の御心に付き従うことができるように努力することができまうように、今日も主が私たちと共にいてくださいますようにお祈り申し上げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン

チャド・エゼーレ。

テネシー州 ミラン

11月23日（木）

私たち全てが必要としているものは愛です

聖書朗読 創世記 38：1～18

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。
愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。 Iヨハネ 4：7

今日の聖書の箇所にあるユダの息子であるエル、オナン、シェラ、そしてエルの妻であるタマルの物語は、私たちの現代の感覚では違和感を覚えます。エルの行いは主を怒らせていたので、主は彼を殺しました。エルの死後、ユダは、死んだ夫のために子をなすようにとエルの弟であるオナンにタマルを与えました。オナンは死んだ兄のために子孫を与えることを望まなかったため、主は彼も殺しました。しゅうとであるユダは、タマルを三男のシェラに与えることを拒否したので、タマルは遊女のふりをしてユダのために子どもをなしました。

感謝すべきことに、新約聖書に基づく教会では、このような戒律は存在しません。次から次へと並べ立てられた戒律の代わりに、イエス様は、クリスチャンに不可欠な戒めとして以下のように述べられています。『「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」これがたいせつな第一の戒めです。「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という第二の戒めも、それと同じように大切です。』（マタイ22：37～39）

疑う余地もなく、この二つの戒めを実行するには非常に大きな重い責任を伴います。しかし、同時に、非常に大きな喜びを伴うものでもあります。まさに愛なのです。主を愛し、互いに愛し合ひましょう。

讃美歌 442

祈り 愛する神様。イエス様が教えてくださったように愛することができますようにお導きください。私が愛に欠けるとき、どうかそのことを覚えさせてください。イエス様は私のために死んでくださったのですから。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

シャロン・フォスター

テネシー州 マックイーン

11月24日（金）

忘れることなかれ

聖書朗読 申命記 8：1～9

気をつけなさい。私が、きょう、あなたに命じる主の命令と、主の定めと、主のおきてとを守らず、あなたの神、主を忘れることがないように。

申命記 8：11

過去は大事なことなのでしょうか？ 歴史を覚えることは重要なことなのでしょうか？ ある人たちは、今と未来だけを考えればよい。過去は変えられないのだから気にやむことはないと言います。しかし、結婚記念日を忘れていた夫は、過去のことは大事ではないのでしょうか？ 愛する人がアルツハイマー病や認知症を患っている人にとっては、記憶はどうでもよいことなのでしょうか？ 愛する人を失った人にとっては、過去は意味のないものなのでしょうか？ む民族浄化や虐殺の恐ろしさを経験した人々は、誰よりも「忘れてはならない。」ことの重要性を理解しています。

信者にとっては、記憶や歴史は今も力を持っています。古代のヘブル人は、神に選ばれた民としての出自を覚えるために、毎年、過越の祭を大切に守ってきました。申命記では、主を忘れることがないように（神をおろそかにしないように）、警告しています。それは最も重い罪のひとつなのです。

イエス様が最後の晩餐の際に言われた「わたしを覚えてこれを行いなさい」という言葉は、私たちクリスチャンが、聖餐式の都度、覚えるべきものです。週ごとに覚える主の食卓こそが、私たちのために十字架の上で自らを犠牲にされた今も生きておられるイエス様、その誉れを喜ぶ道なのです。

讃美歌 7

祈り 全地の造り主たる父なる神様。今日、私たちは、あなたさまの犠牲をあらためて覚えました。あなた様は、死ぬべき罪をもっておりませんのに、私たちのために犠牲になってくださいました。私たちは主の御前に首を垂れます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

アンディ・ウォール

カリフォルニア州 オークパーク

11月25日（土）

難しすぎるものでもなく、遠くかけ離れたものでもなく

聖書朗読 申命記 30：11～14

「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」

ローマ 10：8

モーセは、彼が死ぬ日にあつて説教を行いました。三番目の説教を終えて、彼は、かつてイスラエルの民に教えた、彼らが手に入れられるもの、彼らにできることについて触れられ、みことばに触れるためには、天に上る必要もなく、海のかたに渡る必要もないことを教えられました。モーセが教えたことは、彼らのごく身近にあり、行うことのできるものであったのです。実に、神が民に求められたのは、彼らの口にあり、心にあることであったのです。モーセの説教は、「それをしなさい」という主旨で締めくくられています。

パウロは、ローマにいる信徒への手紙の中で、このモーセの言葉を引用しています。私たちの歩みのうえに与えられた神のご意思は、秘密のパスワードで隠されたものではありません。御旨は、私たちが見つけることができない場所に隠されてはいません。神が私たちに最も望んでおられるあるべき姿と行いには、特別な能力や教育を必要とはしません。みことばは常に私たちの近くにあるのです。私たちの口にあり、私たちの心にあるのです。

神はみことばを身近におかれました。私たちはそれを読み、思索し、また読み、考え、それに応えるのです。そして、それに従い行うのです。手に入れることは難しくはありません。遠くかけ離れたものでもありません。

讃美歌 第二編 80

祈り 愛する神様。私たちが、身近にあり、私たちの理解できるみことばに触れる時を多く持つことができますようにお導きください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ハロルド・シャンク

ウェストヴァージニア州 ウィーン

11月26日（日）

賢き助言

聖書朗読 列王記Ⅰ 12：1～15

密議をこらさなければ、計画は破れ、多くの助言者によって、成功する。

箴言 15：22

あなたは誰に助言を求めますか？ レハブアム王には選択肢がありました。ソロモン王亡き後、ヤロブアムはエジプトから戻り、レハブアム王に対して、彼の父王が民に課した過酷な労働と重いくびきを軽くしてくれるのなら、彼に仕えると申し出ました。

レハブアムは、まず、長老たちに意見を求め、長老たちは、その申し出を受けるようにと助言しました。しかし、レハブアムは、別の意見が欲しかったので、彼と共に育ち、彼に仕えている若者たちに助言を求めました。彼らは、レハブアムに対して、ヤロブアムの申し出を拒絶し、くびきを更に重くすると脅すように勧めました。ことの顛末は歴史の通りです。ヤロブアムと支持する10支族は反乱し、北イスラエル王国を建国しました。対して、レハブアム側にはユダとベンジャミンの2支族しか残りませんでした。

私たちは難しい決断に直面した際に、望む答えが得られる相手に相談しようと思います。しかし、聖書にあつては、その場合、たいいていは望ましい助言が得られていません。パウロは、老人が若い人々に教えることの重要性を語っています。人生は教師であり、長きを生きている人には、分かすべき思慮に富む様々な経験を持っています。もし、レハブアムが長老の助言に耳を傾けていればどうなっていたのでしょうか？

讃美歌 79

祈り 愛する神様。私たちの人生のうえに、あなた様に付き従うより良き決断ができるように、経験に富む人生の先達者を多く与えてくださる幸いに感謝申し上げます。どうか私たちに、賢き助言を求め、それに聞き従う謙遜を与えてくださいますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

J・リチャード・トンプソン